

【脳神経外科】

頭蓋内動脈狭窄症の臨床経過に関する登録研究 Japanese Registry of Intracranial Artery Stenosis (ICAS-Japan Registry)

対象となる方：2024年7月1日から2029年6月30日の間に、画像検査（頭部MRA、頭部CTA、DSA）で50%以上の頭蓋内動脈狭窄症と診断された方（脳主幹動脈急性閉塞症で発症し、再開通後に頭蓋内動脈狭窄症が判明した方を含む）

目的：症候性と無症候性 頭蓋内動脈狭窄のそれぞれにおける、現在の臨床像及び転帰を把握するとともに、患者の背景や現行の治療など、転帰に関係する要因を網羅的に分析する

研究期間：2025年07月07日～2038年12月31日

研究責任者：吉村紳一（兵庫医科大学）

難治性慢性硬膜下血腫に対する中硬膜動脈塞栓術の有効性を評価するランダム化臨床試験

(COMPLEMENT study)

対象となる方：18歳以上の慢性硬膜下血腫を有し、再発または再発のリスク因子を1つ以上有する方

研究概要：中硬膜動脈塞栓術を追加する有効性と安全性を検証する目的に、国内の複数の施設で行われる試験で、追加する群300例・追加しない群300例にランダムに振り分け、データを解析する研究

研究期間：2024年12月～2027年8月

研究責任者：吉村紳一（兵庫医科大学）

「J-ASPECT Study: レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査」

対象となる方：2010年4月～2025年3月に脳神経外科に入院した方

研究期間：倫理委員会承認日より2026年3月31日まで（予定）

研究の目的と方法：多施設共同研究、侵襲なし、介入なし

脳卒中や脳神経外科疾患、および共通のリスクを有し、脳卒中発症・再発と関連する循環器病の診療に関連する疾患を有する患者の症例を、傷病名および手術コードに基づいて絞り込んだDPC調査データとして提出し、全国規模の大規模データベースを構築します。収集されたデータを今後の脳卒中、循環器病、脳神経外科医療関連の研究に利活用されます。また本データベースの構築手法の普遍性、診療情報の正確性・妥当性を検証する。匿名化ツールにより暗号化されたDPC調査データを提出します。

研究機関：DPC対象病院、DPC準備病院、データ提出加算算定病院

研究代表者：国立循環器病研究センター 病院長 飯原 弘二

「急性期脳梗塞に対する再開通治療に関する後方視的研究」

対象となる方：2016年1月1日～2025年12月31日までの間、当院を受診され、急性期脳梗塞に対して再開通治療を受けられた方

研究方法：治療方法の選択に影響しない後ろ向きの観察研究です。年齢、性別、既往歴などの患者背景因子、治療方法の細分化した内容と治療の有用性（90日後のADLの自立程度）や安全性（出血性合併症など）との関連性を調査します。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、氏名やID、入院時期などの個人の情報を保護し、個人を特定出来ない状態で調査を行います。

研究責任者/個人情報管理責任者：西宮協立脳神経外科病院 脳神経外科部長 山田 佳孝

「動脈硬化性の急性頭蓋内主幹動脈閉塞に対する血管内治療に関する後ろ向き登録調査」

対象となる方：2017年1月1日～2019年12月31日までの間、当院を受診され、頭蓋内動脈硬化性病変の急性閉塞による脳梗塞に対してカテーテル治療を受けられた方

研究方法：治療法や脳梗塞の再発などの入院後の経過などのデータを収集します。主な評価項目は、90日後のADLの自立の程度や再開塞の有無までの時間です。

研究期間：2021年7月6日（倫理審査承認日）～2030年12月31日

研究代表機関（研究責任者）：兵庫医科大学脳神経外科学 吉村 紳一

この研究は、急性脳卒中治療を行っている全国の主要病院（約140施設）が協力して実施する研究です。

「脳卒中の急性期診療提供体制の変革に係る実態把握及び有効性等の検証のための研究」

対象となる方：2019年1月1日から2021年12月31日までの間、当院を受診され、脳卒中急性期の治療を受けられた方

研究期間：2021年2月15日（倫理委員会承認日）～2024年3月31日まで

研究代表機関（情報管理責任者）：神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科（坂井 信幸）

この研究は、急性脳卒中治療を行っている全国の主要病院（約900施設）が協力して実施する研究です。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に脳卒中を発症した患者の臨床的特徴を明らかにする研究

対象となる方：2020年6月1日から2022年5月31日までに脳卒中のために入院加療を受けられた方

研究期間：2020年08月03日（倫理委員会承認日）～2022年05月31日

広範囲の初期虚血性変化を有する脳主幹動脈急性閉塞症に対する血管内治療の有効性に関するランダム化比較対照試験（RESCUE-Japan LIMIT）

対象となる方：RESCUE-Japan LIMITの同意書を取得し、試験に参加された方

研究期間：2018年11月5日（倫理委員会承認日）～3年、但し研究計画が承認された日から

研究全体が終了する日まで

一般社団法人日本脳神経外科学会データベース研究事業 Japan Neurosurgical Database（JND）

対象となる方：2018年1月1日以降の脳神経外科入院症例

目的：日本全国の脳神経外科施設における手術を含む医療情報を登録し、集計・分析することで医療の質の向上に役立て、患者さんに最善の医療を提供することを目指すこと

研究期間：2018年1月1日～2028年9月30日

研究責任者：齊藤延人（一般社団法人日本脳神経外科学会）

「再発・難治性慢性硬膜下血腫に対する中硬膜動脈塞栓術の有効性と安全性の検討」

対象となる方：2018年1月1日～2022年12月31日の間に脳神経外科で慢性硬膜下血腫に対する中硬膜動脈塞栓術を受けられた方で受診時の年齢が18歳以上

研究期間：倫理委員会承認日～2024年3月31日

研究機関：岡山大学病院、既存情報の提供のみを行う機関

研究代表者：岡山大学病院脳神経外科 准教授 杉生憲志

抗凝固薬関連のイベント発生に関する後方視的観察研究

対象となる方：2017年1月1日～2019年12月31日の間に入院し、入院前より抗凝固薬を服用していた方

研究期間：2017年1月1日～2020年12月31日まで

中大脳動脈 M2/3 閉塞に対する血栓回収術の後方視的観察研究

対象となる方：2016年1月～2019年5月の間に、機械的血栓回収術を受けられた方

研究期間：2016年1月1日より2019年12月31日まで

脳主幹動脈閉塞/狭窄に対するアピキサバンの効果に関する観察研究(ALVO)

対象となる方：2014年10月1日～2018年2月28日に入院し、脳主幹動脈に閉塞または狭窄(50%超を 確認され、入院時に非弁膜症性心房細動が確認され、発症から14日以内にアピキサバンの治療を受けた20歳以上の急性期脳梗塞の方

研究期間：2014年10月1日～2019年5月31日

微小脳動脈瘤に対する脳血管内治療の後方視的観察研究

対象となる方：2014年1月～2019年8月の間に、脳血管内治療を受けられた方

研究期間：2014年1月1日より2019年12月31日まで

脳主幹動脈閉塞/狭窄に対するアピキサバンの効果に関する観察研究(ALVO)

【整形外科】

日本整形外科学会症例レジストリー (JOANR) 構築に関する研究

対象となる方：2020年4月1日～10年間、整形外科で運動器の病気や怪我に対する手術を受けられた方

研究期間：2020年4月1日～2030年3月31日

※第1例目の登録から10年間とする。

ただし、「25. 研究計画の変更 (2) 改訂」の手続きを経て、研究期間は延長する。

研究内容の詳細：<https://www.joanr.org>

【リハビリテーション科】

脳卒中再発例の帰結の検討

対象となる方:2021年4月1日～2023年9月30日の間に脳卒中で入院された方

研究期間:2023年10月21日から2026年3月31日まで

研究責任者:道免 和久(兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授)

脳卒中患者の急性期脳画像と帰結の関連

対象となる方:2021年4月1日～2023年3月31日の間に脳卒中で入院された方

研究期間:2023年7月20日から2026年3月31日まで

研究責任者:道免 和久(兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授)

脳卒中患者急性期患者におけるサルコペニアとせん妄発症の関連

対象となる方:2020年1月1日～2023年6月30日の間に脳卒中で入院された方

研究期間:2023年7月20日から2026年3月31日まで

研究責任者:道免 和久(兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授)

脳出血患者の急性期CTと長期予後の関連

対象となる方:2019年4月1日から2021年3月31日に脳出血の診断で当院に入院された方

研究期間:2021年8月2日より2023年3月31日まで

研究責任者:道免和久(兵庫医科大学リハビリテーション医学講座 教授)

脳卒中患者の急性期の臨床所見・脳画像と帰結の関連

対象となる方:2019年4月1日から2024年3月31日の間に脳卒中で入院された方

研究期間:2024年4月19日から2027年3月31日まで

以下に該当する患者さんを研究対象とします。

研究責任者:道免 和久(兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授)

【看護部】

急性期大腿骨近位部骨折高齢患者の GLIM 基準での低栄養と 6 ヶ月・1 年後の生存・ADL・再骨折の関係

対象者：2020 年 8 月～2024 年 7 月の期間に、当院整形外科病棟に入院した大腿骨近位部骨折高齢患者

研究期間：2025 年 7 月～2026 年 6 月

研究代表者：潮崎 香織（看護部）

脳卒中患者におけるサルコペニアとせん妄発症の関連

対象者：2021 年 4 月～2022 年 3 月の期間に、当院 SCU に入院した脳卒中患者

研究期間：2023 年 2 月～2023 年 12 月

研究代表者：潮崎 香織（看護部）

サルコペニアの摂食嚥下障害の有病割合および関連因子：多施設データベース研究

対象となる方：2019 年 11 月～2021 年 2 月の間に、大腿部近位部骨折で入院された方

研究期間：2019 年 10 月 21 日（倫理委員会承認日）～2021 年 3 月 31 日

研究責任者：若林秀隆（横浜市立大学附属市民総合医療センター リハビリテーション科）

大腿部近位部骨折患者におけるサルコペニアと嚥下障害の関連

対象者：2018 年 11 月から 2019 年 12 月の期間に、当院で大腿部近位部骨折の手術を受けた 65 歳以上の女性患者

研究期間：2020 年 3 月 1 日から 2021 年 3 月 1 日まで

研究代表者：永野 彩乃（看護部）

【医療福祉科】

脳卒中患者におけるサルコペニアの有病率および骨折リスクの有無を調査し、治療介入の必要性の研究

対象者：2021 年 12 月～2022 年 3 月の期間に当院 SCU に入院した脳卒中患者

研究期間：2021 年 12 月～2022 年 12 月

研究代表者：田中 美紗（診療協力部 医療福祉科）

【栄養科】

脳卒中嚥下障害患者における GLIM 低栄養と退院時 FOIS の関連

対象者：2021年4月～2023年3月にSCU入室した65歳以上の急性期脳卒中嚥下障害患者

研究期間：2025年7月～2026年6月

研究代表者：花岡 麻里子（栄養科）